

11月の定期演奏会にむけて

165回定期演奏会にて再演される「女声、室内オーケストラとライブ・エレクトロニクスのための『韻律の塔』」の作曲者、山本和智です。

今回取り上げてくださること、大変嬉しく思っております。

さて、この定期演奏会のサブタイトルは『現代曲の神髄に挑む』というもの。私はてっきり現代曲のみの一夜を想像していましたが何ということか現代曲は拙作のみ。その神髄に迫るために本作が選ばれようとは光栄でもあり重責でもあります。では本作について少し触れることにします。この作品は文字通り「女声（ソプラノ）と室内オーケストラ」のための作品ですが、女声は一切「言葉」を発しません。「あー、うー」のような言葉にならぬ声を発するのみです。これは声もまた「楽器」として扱っているとも言えるでしょう。その声のソロに始まり、そこに加わる打楽器奏者とのデュオ、もう一人打楽器が加わってトリオ、ピアノが加わりカルテット…とオーケストラは各パートごと次第に加わっていき「塔」を建設します。ソプラノは初演に引き続き柳原由香さん。彼女の声と比類なき表現力は必聴です。

そして本作にはもう一つ重要なパートがあります。それが「エレクトロニクス」。この世界の第一人者である有馬純寿さんの受け持つこのパートは歌手の声に変調や拡張を施します。「言葉にならぬ声」がこのエレクトロニクスの翼を得て、それは時に「言葉」よりも雄弁に響くことを目的としています。

果たして歌手の声がどのような変化を遂げ、そしてそれがセントラル愛知交響楽団のみなさんによる演奏と如何なる反応を起こすのか…。これはご来場いただき聴いてもらう他ありません。では11月16日に。

山本和智 プロフィール

独学で作曲を学ぶ。オーケストラ、室内楽、アンサンブル、合唱、独奏曲、映画音楽など作曲活動は広範に亘り、作品は東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、京都フィルハーモニー室内合奏団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団等の演奏団体・演奏家らによって日本のみならずカナダ、フランス、ドイツ、オランダ、ベルギー、アメリカ、ロシアなどで広く演奏されている。2009年度武満徹作曲賞第2位(審査員：ヘルムート・ラッヘンマン)、2010年第5回JFC作曲賞(審査員：近藤譲)、2011年第6回ユルゲンソン国際作曲賞第2位(ロシア)など受賞。

